

fromワンとお取引頂きましたユーザーさまにお届けするニュースレター。

「1から」通信

発行部数 350部 平成24年新年号(26号)

発刊者 (有)fromワン

川口市東川口1-16-6-2F

TEL 048-291-2240

FAX 048-291-2242

URL: <http://www.from1.jp>

山本 達也

取り扱い業務

FAX/コピー機/複合機

リサイクルトナー等サプライ品

業務用IP電話システム

電話工事/LAN工事

インターネット環境のコンサルティング

今年もあつという間に始まり、バタバタしている間にもう二月に突入しそうな今日この頃……。皆様の二〇二二年はどんなスタートでしたか？
我が家には、新しい家族が増えてしまいました。(苦笑)
子供たちが、用水路に捨てられ、この寒さの中泥だらけになっていた、彼、彼女を家に連れてきました。



以前から私の考えで、家で動物を飼うことはできないと、常々に子供達にも言うて聞かせてありました。

しかし、今回ばかりは今までに感じたことのない真剣な懇願です。

玩具を欲しがっている目の色ではないことを確信した私は、とうとう許してしまいました。これも何かの縁。今年私は私も俊敏で身軽な猫のように、軽々と目標という塀を越えてゆける様、今年のスローガンはコレに決まり！

「猫のようにニ〇二二。」 ※見間違い注意！決してためきではありません。

今年も宜しく願います。

By 山本



お役立ち情報

前は、インターネット(メールアドレス)を使った「インターネットFAX」ではなく、電話回線(FAX番号)を使った「PC-FAX」についてご紹介しました。

今回は、具体的な利用シーンとして、「PC-FAX」を利用した外出先でのFAXの送信/受信についてご紹介します。

今回も簡単にバックトラック(復習)しますね。

PC-FAXとは、

- ①「パソコンを使って」
- ②「電話回線で」
- ③「自分(相手)のFAX機やパソコンに」
- ④「FAX番号を使って」

FAXの送受信を行うことでしたね。

その為、不要なFAXはパソコン上で削除でき、インク代や紙代などが節約できるペーパーレスFAXとして、コスト面で威力を発揮するのでしたね。

今回は利便性として、外出先でのFAXの送信／受信についてです。

皆様も現場や取引先など、外を飛び回ってお仕事されている方も多いと思います。お仕事によっては外出先でもリアルタイムで自分宛のFAX内容を確認できたら…。ということはありませんか？

インターネットFAX同様、ケータイやモバイルPCがあれば、「PC-FAX」でも外出先でFAXを確認することが可能なのです。

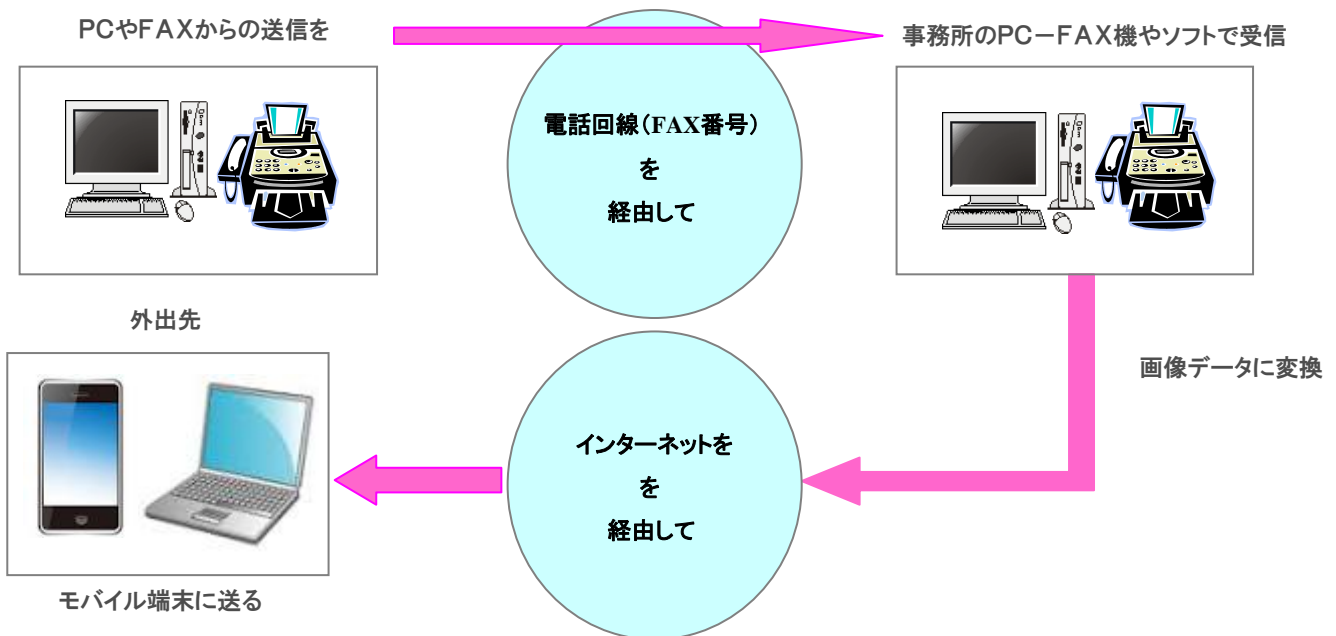
厳密に言うと、インターネットFAXとのハイブリット技なのですが…。(少しズルイ!?)

説明します。先方が電話回線を使って事務所のFAX番号にFAXを送ってきます。

↓
事務所のPCFAXが、送信されたFAXを画像データに変換します。

↓
外出先のあなたのケータイやモバイルPCなどにメールで送信してくれます。

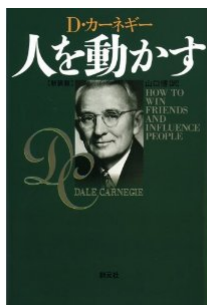
こんな感じです。



この方法は、事務所の複合機の機能や、PC-FAXソフトなどを利用して行いますので仮に、「ローカル型」としましょう。それに対して、事務所の複合機やソフトではなく、一旦インターネットのサーバーで受信され、受信側がそれを確認しに行くという、「クラウド型」の方法もあります。

次回は、そのクラウド型の方法についても触れたいと思います。お楽しみに！！

おすすめ本



< 人を動かす >

著者： D・カーネギー

出版： 創元社

昨年春号でご紹介した「道は開ける」の姉妹書。聖書に次ぐ世界的ロングセラーと言われる、啓発書の古典。題名から一瞬ビジネス書にありがちな操作的なものを感じるかもしれませんが、もちろん表面的なテクニックの類ではありません。

「承認の欲求」—この願望が人間と動物を分かち。

人間は生まれた瞬間から、自分以外の他者(親も含む)との関わりなしでは生存することが出来ません。他の動物にとって、食物の獲得能力が必須であるように、人間にとって他者とのコミュニケーション能力／願望は必須であり、生存の為にプログラムされた本能なのでしょう。

己の利の為にというよりは、人間関係の中において、人としての在り方が示されているのではないのでしょうか。

ネット上の顔の見えないコミュニケーションが花ざかりの今、エネルギーを必要とするリアルなコミュニケーションこそが、「人を動かす」ののかもしれません。親、子供、夫婦、上司、部下、友人、全ての人に一度は手にとってみて欲しいと思います。

【編集後記】

仔猫の件で、目をそらさず私に訴えかける、姉(8才)弟(6才)の真剣な眼差しの奥には、「守りたい。」という純粋な一途さと、「お父さんでも譲らない。」という固い決意がありました。許した私が、内心ホッとしたのも事実です。

幼いながらも、彼らに確実に芽生えている強い母性と父性を垣間見た気がしました。

あれから1ヶ月で仔猫たちもずいぶん大きくなりましたが、子供たちは今日も約束通り一生懸命、お世話して(されて?)います。

「宿題もがんばる約束だよな。」と言った私の顔を見て、一瞬で目をそらし、子供達が猫達と逃げていったことは、言うまでもありません……。

それでは、また春号で！！

こちらは、3年前のクリスマスに、子供達にせがまれてプレゼントした、猫のぬいぐるみ達です。

子供達は毎晩布団の中で、このぬいぐるみ達に話しかけながら眠りについていました。

どうですか？……………ソックリですよ。

なんだかとっても不思議です。

やっぱり何かの縁があったんでしょうね……。

